

決	議 長	局 長 等	次 長	リ-ダー	担 当	合 議
裁						 

令和6年8月5日

養父市議会議長  
西田 雄一 様

養父市議会議員 田路 之雄

### 政務活動概要報告書

政務活動の概要を下記のとおり報告いたします。

#### 記

- 1 研修日時 令和6年7月2日(火)、8日(月)～9日(火)
- 2 研修場所 市議会第1委員会室、京都府綾部市、京都市
- 3 研修者氏名 田路之雄、深澤巧、谷垣満、西垣司、瀬原敬樹
- 4 研修内容 「養父市の産業歴史と先人の功績について」学ぶ

#### ■研修会

「北垣国道の人物像と功績について」

日時：7月2日(火) 10:00～11:30

場所：市議会第1委員会室

講師：養父市社会教育委員長 北垣国道研究会 代表 村上義隆氏

#### ■管外視察

「近代養蚕業の隆盛と養父市 まちのなりたちについて」

日時：7月8日(月) 10:00～12:00

視察先：グンゼ博物苑(京都府綾部市)

#### ■管外視察

「琵琶湖疏水 日本の近代化と北垣国道・島田道生らの功績について」

日時：7月9日(火) 10:00～12:00

視察先：琵琶湖疏水記念館(京都府京都市)

#### 5 活動成果

議会人として、本市の成り立ちと文化・歴史に大きな影響を与えた養蚕業と、北垣国道、島田道生など郷土の先人の功績を学ぶことを目的に研修会と管外視察を行った。

#### ■研修会：「北垣国道の人物像と功績について」

市社会教育委員長の村上義隆氏を講師にお招きし研修会を実施した。

北垣国道（晋太郎）は、天保7年（1836年）現在の養父市納座に生まれ、7歳で池田草庵の「立誠舎」「青谿書院」へ入門した。しかし、27歳の時、「生野の変」

（生野義挙）に参加した。しかし、生野義挙は破陣し、鳥取から長州に逃れ倒幕運動に身を投じた。その後は新政府の役人となり、明治14年から24年まで第3代京都府知事を務め、明治23年には5年の歳月を要し琵琶湖疏水を完成させ、京都の近代化に大きく貢献した。その後明治25年には、北海道庁長官にも就任し函館港や小樽港の整備を行い、また、全長1652キロメートルにも及ぶ北海道鉄道の建設を推進した。そして、明治29年には男爵に任命された。明治40年、北垣国道は、ふるさとに帰省して建屋小学校を参観し、金100円と肖像画を寄付し、没後、8反2畝（約82アール）の水田も建屋小学校に寄付した。水田は農家に貸し出され、その使用料（年貢）が毎年、学校運営の資金となった。これらの歴史的な史実からも北垣国道の郷土への並々ならぬ愛着を感ずる機会となった。

#### ■管外視察：グンゼ博物苑

「近代養蚕業のグンゼの隆盛と養父市 まちのなりたちについて」

養蚕業の父の「上垣守国翁」は、本市の文化・経済振興と深く関わっており、グンゼ株式会社とも深いつながりがある。大正3年のグンゼ八鹿工場、大正7年のグンゼ養父工場の開業を行い、地域採用を基本とすることで八鹿のまちなかの経済と地域振興に大きく寄与していることが担当者の説明で窺えた。また、「三つの驍」が示す工員さんへの教育や、勤務年数に応じた家財嫁入り道具（筆筒や化粧台）の進呈制度などは、工員の福利厚生の上昇を図る共存共栄の郡是創業の精神であり、地域振興・発展に資する民間企業の役割と理念を明確に示すものであると深く感じた。

#### ■管外視察：琵琶湖疏水記念館

「琵琶湖疏水 日本の近代化と北垣国道・島田道生らの功績について」

京都と大津を繋ぐ「希望の水路」の説明を学芸員 久岡道武氏より説明をうけた。千年以上にわたって日本の都であった京都は、明治維新における事実上の東京遷都によって人口が3分の1も減少し、「いずれ狐や狸の棲家になる」といわれた。そこで人々は京都と大津を繋ぐ「希望の水路」琵琶湖疏水の建設に、まちの再生の望みを託した。

第3代京都府知事に就任した北垣国道の下、当時の京都府2年分もの125万円の莫大な工事費を要する前代未聞の大事業には、若い才能が抜擢された。工事の担当者に工部大学校（現在の東京大学工学部の前身の一つ）を卒業して間もない田辺朔朗（当時21歳、後の北垣国道の長女の夫）を迎え、また、欧米の測量技術を学んで実績を積んでいた島田道生（当時33歳）が精密な測量図を作成し、明治18年（1885）

年に工事が開始された。延べ 400 万人の作業員を動員し、約 5 年に及ぶ難工事の末、明治 23 (1890) 年に第 1 疏水が完成し、京都のまちは、復興の道を力強く歩み始めた。設計から施工まですべての工程を日本人の手で担った日本最初の土木事業であり、これらの難工事を完成された郷土の偉大な先人の功績大きい。

#### まとめ

今回、郷土の偉大な先人のなかでも養蚕業の父「上垣守国」、琵琶湖疏水工事の功績者「北垣国道・島田道生」の管外視察を行った。いずれの先人も破天荒なエネルギーで偉業を成し遂げる強い行動力と推進力を感じた。

琵琶湖疏水記念館では、疏水工事の偉業を後世に伝えていくため、京都市内の小学 4 年生を対象に常時見学会を実施している。養父市としても今後において、郷土の偉大な先人の顕彰を行い、子どもたちの「ふるさと教育」になお一層活かしていくべきと感じた。

今回の研修会・管外視察を、今後の自身の議員活動にいかし、地域振興・発展と住民福祉の充実に寄与したい。